

令和6年5月21日開催

未来創造・教育力向上特別委員会

委員長報告

令和6年6月定例会

委員長 前原博孝

去る5月21日に開催されました当委員会の審査概要について、順次ご報告申し上げます。

初めに、報告事項の1「英語教育について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

令和3年度から全面実施となった中学校新学習指導要領では、「即興で話す力の育成」が新設されたほか、「授業は英語で行うことを基本とする」との方針が打ち出されたことに伴い、本市では「自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成」を目指し、教科書を繰り返し学習し効果的に活用する5ラウンドシステム指導法を軸とした授業改善に全市立中学校で取り組んでいるとのこと。

また、5ラウンドシステム指導法の導入に併せて、GTEC研修事業を実施し、生徒が受検したGTECスコア型4技能テストの結果を官民連携による三者面談や研修会を通して教員の授業力向上に取り組むことで、生徒の学力向上につなげているとのこと。

5ラウンドシステム指導法で学習した生徒が令和3・4年度の第1・2学年次に受検したGTECスコア型4技能テストでは、4技能すべてにおいて市平均スコアが全国平均スコアを上回り、特に本市の課題であった「聞くこと」の技能に大きな伸びが見られたとのことでありました。

以上のような説明に対して、5ラウンドシステム指導法を導入した授業についていけない生徒への対応について問われ、これに対して、本指導法は、聞くことや読むことを繰り返す指導法のため、授業についていけない生徒に対しても有効であるとのこと。また、教員やALTによる個別対応や、GIGAスクール端末内のデジタル教科書を活用した個に応じた学習により対応しているとのことでありました。

このほか、県内における5ラウンドシステム指導法の導入状況について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

最後に、報告事項の2「いじめ根絶に向けた取り組み状況について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

いじめ根絶に向けた取り組みとして、小・中・高等学校のいじめ対応教員82人を対象に研修会を実施したほか、毎月期限を設けて、各学校からいじめ事案の認知及び解消に至った児童生徒数等の報告を受けているとのこと。

いじめ問題に関する調査状況については、4事案について報告があり、1事案は、いじめ問題調査委員会が設置される予定で、調査継続中であるとのこと。残る3事案は、保護者からいじめ問題調査委員会の設置を希望しない旨の回答があったとのことでありました。

以上のような説明に対して、SNSによるいじめへの対応について問われ、これに対して、警察や電気通信事業者を講師とした非行防止教室を実施し、情報モラルや法律上罰則の対象となることへの理解等について踏み込んだ指導を行なっているとのことでありました。

このほか、過去のいじめ事案にかかわり、当事者の卒業後にいじめ問題調査委員会を設置した事例の有無について等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

以上で報告を終わります。